

野地潤家先生著

「作文教育の探究」

本書は、まえがきにも、「作文教育のありかた、方法について探求を試みた苦闘の記録である。」(二べ)とのべられているように、文字通り、厳しくも激しい先生ご自身の「作文教育の探究」そのものである。

作文教育の方法として、教科作文的なもの、生活綴り方的なものがあるが、先生の方と、生活綴り方的なものを止揚統一するも法論は、このふたつの立場を止揚統一するものである。「文章をコンポジションの面から

指導していくという客観化された手立てといふものを、有効にとりあげていくと同時に、その客観化されたものをほんとうにひとりひとりの子どもが書きあらわしていくというときは、外からはなかなか察知しがたい生むこととの苦しみをしている、また感じている、そういう厳肅な面がいつでも文章を書くという行為のなかにはあります。生むことの機微というものに触れている、そういう指導者だけ

が、実は文章を生み出していく書き手にほんとうの自信を与え、その書き手からすぐれた値うちのある文章を引き出すことができはしないか、そういう気がするのでございます。」(24)「作文教育の改造」(二七三べ)とのべられているところに、それが最もよく表わされている。

本書の内容は、次のように構成されている。

I 作文教育を求めて

- 1 国民教育としての書くことの教育—作文教育の発展のために—
- 2 作文教育の課題—感動の回復と自信の育成と—
- 3 作文教育の基本問題—文章の呼吸を把握すること—
- 4 表現力の育成の問題
- 5 作文教育研究の分野と方法

II 文章形態の機能・特性

- 6 日記の指導について—困難さの問題を中心に—
- 7 わたくしの日記
- 8 書くこととの教育の確立—「文集」への定着とその活用—
- 9 感想文指導の意義
- 10 論文の文章について

III 作文教育の推進

- 11 書くこととの教育推進の課題
- 12 作文指導の観点
- 13 作文教育を求めて—コース

(系統) 設定のむずかしさ―

14 文章の
15 中学校

表現力(作文)の評価と処理

新指導要領「書くこと」の考察

IV 作文教育に望む

16 新指導要領の問題点―国語科・作文を中心に―

17 作文教育の進展のために

18 高校作文教育の前進のために

19 作文の指導計画―高等学校―

20 高等学校作文教育に望むこと

V 表現指導を求めて―授業・講演―

21 “書きだしの研究” 授業記録 その一

22 “文章の研究” 授業記録 その二

23 作文学習の原理と方法

24 作文教育の改造

25 表現指導のなげき・よろこび

授業・講演をもふくめて、作文教育についての課題があますところなく論究されている。

本書から学ぶことはきわめて多大であるが、特筆すべきことをまとめてみると、まず第一

に、作文教育の基本として、「文章への目を

どのように敏感にし、育てていくか」がくり

かえし述べられていることがあげられる。つ

まり、「文章を書く気構えと文章を書く生きた

呼吸との把握」(一五八頁)の重要性が強調され

ていることである。第二に、指導の中核とな

るものとして、方法そのものよりも、内実を耕すことが力説されている。たとえば、書くことにおける感動の回復や、感想文指導における感想そのものを育てることなど。要するに、いづれにしても、文章を書くことの根本がどこにあるかを、求心的に示されているものである。

作文教育探求の苦闘の記録として、目をひられることが多いだけでなく、幾多の課題をどのように克服していくかということについて数々の示唆を与えられる書である。

(A5判・二九六ページ・一三〇〇円)

文化評論出版・昭和47年7月20日刊行)

(広瀬節夫)